

## 今回出された成績について

シラバスに示した評価方法(授業内でも確認済み)にしたがって成績を出しているが、教員側が意図した基準に概ね到達している状況がうかがえた。

指定テキストを使用した家庭での予習復習や学習ノートの見返し等が全くできていない者や、提示資料(PPT)にかなり依存しすぎていて講話で示されている含意について記録やメモを全く取らず(写真を撮るだけの者もある)、理解が不十分だと思われる者が多々見受けられる。

結果的にSとAが多くなってしまったが、ほとんどの学生が毎回出席をし、授業にもまじめに受け、課題に取り組んでいたのも、妥当といえる。

事前に評価基準を学生に説明しています。実験への出席点+実験レポートの評価で評点をつけています。実験への取り組みの状況(実験手順・操作法・意欲)なども評価すべきですが、そこまでできなくて残念です。

レポート、学習指導案、模擬授業のコメント用紙、参加意欲から評価した。全体の83.3%は、十分に到達目標を達成している。レポートでは、学習指導要領では改訂の主旨や次期改訂におけるアクティブ・ラーニング、模擬授業についての課題に対して、的確に述べられているものが多かった。ただし、初めて指導案を作成する学生が多く、学習指導案作成上の細かな点については、まだ課題が残る学生もみられた。学習指導案の書式や作成の指導時間は限られているが、さらに指導の工夫が必要であると考えている。

算数・数学教育の専門用語や指導法についても折にふれ扱っているが、どちらかというとな実際の授業運営や児童の目線に立って算数の授業に向き合うことができたかどうかを評価するようにしている。それらを授業内での発言や取組の様子、課題として出させた指導案の記載内容などから読み取っている。

レポート課題の提出が充分でないことが成績に影響する 경우가少なくない。また、レポートは表現に自由度がある課題も設けているため、それらに積極的に取り組んでもらうことを具体的にうながしていきたい。

担当した4回の成績についてみると正答率8割程度を期待して出題した問題で、目標に達したと思われる学生は全体の5割程度であった。理解しづらいところがおおよそ把握できてきたので、この点についての説明方法などを見直していきたい。

出席、提出レポートにより適切に評価できた。